

FRANCE
EXPO OSAKA 2025

「愛の国」への旅

2025年 4月13日 - 10月13日

目次

エマニュエル・マクロン、フランス共和国大統領からご挨拶.....	4
ローラン・サン=マルタンの声明.....	5
ジャック・メールの声明.....	6
フランス館：「愛の国」への旅.....	9
大阪・関西万博 2025：未来社会をデザインしよう.....	10
フランス館 - 鼓動のリズムに身をゆだねる.....	12
心を揺さぶるコンセプトの建造物	
来場者の体験ルート：没入型の感動的な旅へ	
デジタル時代におけるリアルなパビリオン.....	33
アジェンダ：184日間にわたる充実した参加型プログラム.....	34
企画展示	
主な日程とテーマ別の2ウィークス	
4人のアンバサダー.....	38
COFREXとそのパートナー.....	40
実用ガイド：大阪滞在とフランス館見学.....	47
博覧会場である「夢洲」に向かう	
今すぐ入場チケットを予約する	
すべての人にインクルーシブでアクセスが可能な体験を	
2025年大阪・関西万博：刹那的なものを越えた、建築の未来	
フランス館の設計・制作：クリエイティブチーム.....	53







エマニュエル・マクロン

フランス共和国
大統領からご挨拶

フランスといえば思い起こされる印象、それは「愛」のイメージです。芸術の中では喝采を沸き起こし、感動の涙を流させ、表現され、モニュメントでは絶えず挑戦して止まない強い願いとして具現化され、何世紀にもわたって国を愛する信条の中に受け継がれ、我々のサヴォワフェールと伝統の中で風景や自然に向けられている印象として、「愛」はそこが我が家であるフランスの中に存在します。

この愛の情熱は、ゆえに、しばしば精神の冒険の中でも昇華されてきました。それは私たち皆が一国家間の平和、この地球の未来、あらゆる社会における自由の保護—という同じ課題に立ち向かわなければならないからです。この冒険はこの先数十年は刻み続けられなければなりません。大阪万博 2025 のフランス館に来訪される方々に体験いただけるのは、このフランスの世界観であり、「愛」だけではなく、「大胆さ」と「対話」の賛歌なのです。

それは我が国の企業、アーティスト、科学者の提案を通じて様々な形で表現され、それぞれが独自のやり方で、フランスが共有する理性、美、進歩、自由を世界に向けて発信することを目指しています。この大きな望みを抱きつつ、愛、のように、普遍的に通じる言葉を用いて、明日の世界に希望を届けるものとして。





ローラン・サンマルタン

欧州・外務大臣付 貿易・在外
フランス人担当 閣外大臣



173日間にわたり、大阪・関西万博2025は世界の中心となり、技術革新、国際協力、そして人類のための創造の舞台となります。「未来社会のデザイン」というテーマのもと、各地域、企業、市民社会が一堂に会し、未来の暮らしを共に想像するこの場は、国と国、文化と文化、人と人をつなぐ絶好の機会です。

フランスもこの機会を最大限に活かします。4月13日から10月13日まで、フランス館は世界に向けて、フランスが誇る最高の技術と文化を発信します。その軸となるのは「愛」です。愛は違いを超えて人々を結びつけ、創造者や発明家、詩人たちにインスピレーションを与える力を持っています。

「Make It Iconic」をテーマに掲げるフランス館では、フランスの卓越した技術と専門性を披露し、より公正で結束した世界、持続可能な成長、責任ある発展モデルに向けたフランスの取り組みを明確に示します。フランスの発明精神と大胆な挑戦の姿勢を世界に示し、「フランスを選ぶことは、常に卓越性を選ぶこと」であるというメッセージを発信します。テクノロジーから伝統工芸、食品産業から持続可能なモビリティまで、あらゆる分野の企業がそのソリューションを紹介する場となるでしょう。

また、万博期間中にはフランスの企業や団体が国際的なパートナーと交流する機会が設けられ、相互の知見を活かした新たな協力関係が生まれることを期待しています。このプロジェクトの成功に向けて尽力されるすべての方々に感謝申し上げます。特に、フランスの各地域、「Team France」の関係者、COFREX、そしてそのパートナーの皆様は深く敬意を表します。

ともに、フランスの輝きを世界へ！





ジャック・メール

COFREX社 社長
大阪万博 2025
フランス館総監督

フランスのリズムに世界が熱狂したパリ・オリンピックのマジックに続き、2025年大阪万博ではフランス国のパビリオン（フランス館）が日本にクリエイティビティの聖火をつなぎます。

このパビリオンは展示、イベント、そして感動を体験する場であり、当万博のメインエントランスの正面、そして日本館にほど近い、理想的な場所にあります。このパビリオンは、文化、科学、経済、社会といったあらゆる分野で、フランスの当事者たちが活躍を広く展示・発信する、またとない機会です。パビリオンでは、フランスがダイナミックにノウハウやコミットメントを、あらゆる多様性を通じて展示することが可能となります。大手グループ企業から中小企業、業界団体、地方自治体、そして研究機関や文化機関といった数々の団体が既に名乗りを挙げていますが、そうでない団体にもまだチャンスは残っています。

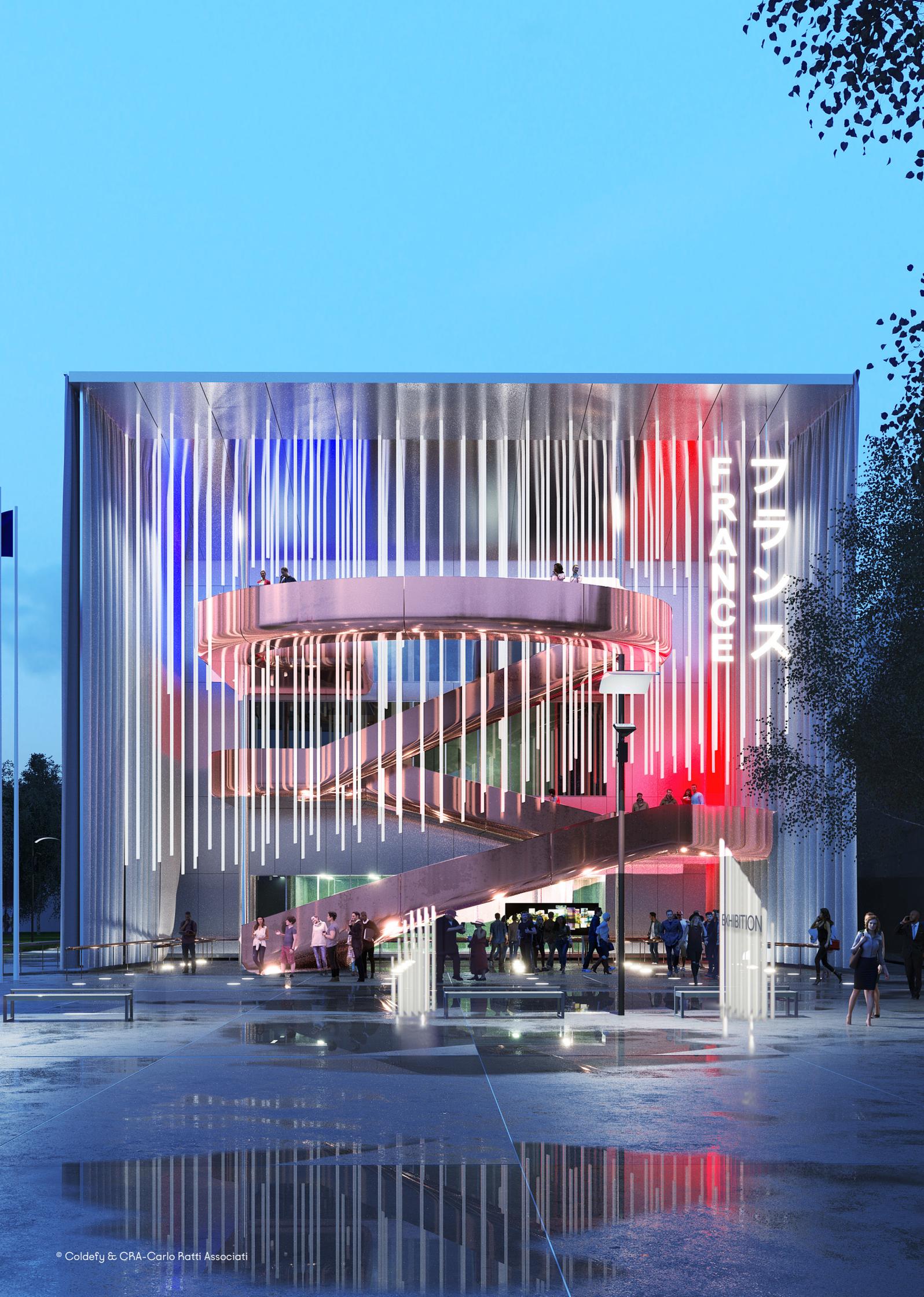
日本は、大阪で「いのち輝く未来社会のデザイン」を共にしていこう呼びかけています。あらゆる種類の対立がニュースを席卷しているこの時代において、フランスは独自の価値観と豊かな感性を通じて、また、生きることの意味とその最も美しい側面、つまり「愛」という力強いメッセージを通じて、現在も未来も前向きで責任のある姿勢で答えます。

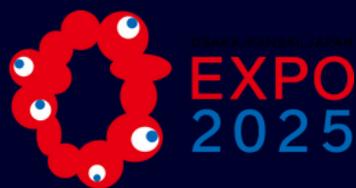
自分への愛、他者への愛、自然への愛に導かれる「愛の讃歌」は、フランス国のパビリオンの建築、舞台装置、プログラム、そしてデザインへと姿を変えて映し出されています。

このパビリオンはとりわけ、日本の人々にアプローチすることを目的としています。日本の人々は期待するもののレベルが高く、西洋世界からかけ離れた価値観を持っています。だからこそ、日仏の絆をより強固なものにするために、フランス館は文化・匠の技・景観に対する愛、没入型の体験というフランスと日本の間で分かち合える物語を、アイコンとなる遺産や革新技術と取りまとめて表現することで、フランスの威光を伝える役割を果たします。

2025年大阪万博によろこそ！共にフランスからのメッセージを発信しましょう。







フランス館 「愛の国」への旅

2025年4月13日－10月13日

2025年4月13日から10月13日まで、大阪は世界を迎え入れる舞台となります。日本で3番目に大きな都市である大阪は、開幕とともに必見の目的地となり、国内外から2,800万人の来場者が訪れると予想されています。夢洲の人工島を舞台に開催される大阪・関西万博2025では、「いのち輝く未来社会のデザイン」をテーマに、世界中の人々が未来へのビジョンを共有する場となります。

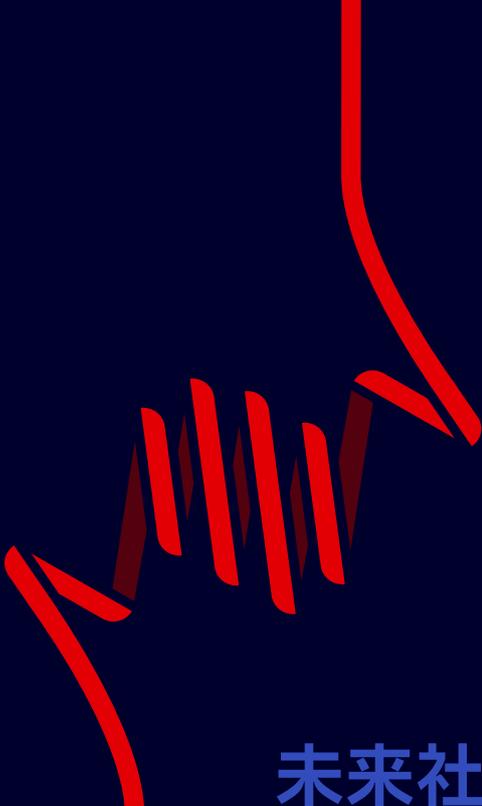
フランス館は会場の入り口という絶好のロケーションに位置し、他のパビリオンと一線を画すテーマを掲げています。それは、普遍的でありながら、常に新鮮な響きを持つもの―「愛の賛歌」です。

このテーマは、未来への約束であり、世界を新たに創造するための招待状でもあります。愛は、人生における最も純粋な価値を象徴するもの。その指針のもと、フランス館は、伝統技術、芸術、創造性、科学、革新、そしてフランスの社会的な取り組みを讃えます。

来場者は、視覚と聴覚のリズムに導かれながら、洗練されたモダンな建築、没入型のユニークな展示、斬新で大胆な演出、そして充実したプログラムを体験することになります。

フランス館の設計・運営を担当するCOFREXは、300万人、1日あたり2万人以上の来場者を目標に掲げています。この壮大な挑戦を成功へ導くため、多くの企業や機関と連携し、フランスと日本の架け橋となる4つの主要パートナーの支援を受けています。LVMH、AXA、アルザスワイン (LES VINS D'ALSACE)、ニナファーム (NINAPHARM) は、それぞれ独自の形でフランスの多様な魅力を体現し、フランス館のメッセージを支えています。

万博の開幕を目前に控え、フランス館とそのパートナーたちは、公式アンバサダーを発表し、訪問者に向けた特別な体験を紹介します。また、常設展示の世界観と、充実したプログラムの主軸を明らかにし、フランスならではの創造性と革新の精神を世界へ届けます。



2025年大阪万博

未来社会をデザインしよう！

日本は博覧会国際事務局（BIE）の創設メンバー国であり、万国博覧会においては長い歴史を持っています1867年、パリ万博に初めて出展国として参加して以来、日本はこの分野では異彩を放ち続け、1970年にアジア初となる万博を大阪で開催しています。1970年の大阪万博では6400万人の来場者を迎え、世界に開かれた産業大国として、日本が急成長していくターニングポイントとなりました。1985年のつくば万博では科学技術に焦点が当てられ、2005年の愛知万博は「自然の叡智」をテーマに開催されたことで、日本はイノベーションと最先端のアイデアを推進する中心的な存在としての地位を確立しました。

2025年の大阪万博では「いのち輝く未来社会のデザイン」をテーマに、再び国際社会が一堂に会します。建築家・藤本壮介氏が設計した木の大きな回廊に囲まれた広大な円形空間には、各国や招待団体のパビリオンが集結します。

会場は「いのちを救う」「いのちをつなぐ」「いのちに力を与える」という3つのゾーンに分かれ、それぞれ健康、教育、技術革新など、人間・自然・テクノロジーの交差点となるテーマを探求します。フランス館は「いのちに力を与える」ゾーンに位置し、未来社会に向けたインスピレーションを提供します。



フランス館

「鼓動」のリズムに身をゆだねる

2025年大阪万博のフランス館のメインテーマは、「愛の讃歌」です。なぜならば、愛の讃歌は人間、連帯、普遍的価値を中心とした未来像を体現するものだからです。尊敬と調和を何よりも重んずる日本のおもてなし文化に触発されたこのテーマは、伝統と現代性がエレガントに融合した大都市、大阪で万博が行われるというコンテキストに共鳴しています。「愛」というテーマを選んだフランス館は、この感情が持つ団結の力と、包括的で持続可能な社会の構築における本質的な役割を改めて訴えかけたいと考えています。

フランス館のコンセプトは、その建築、展示、プログラム、内装デザインに反映されており、まるで鼓動する心臓のように、生命のリズムを感じさせます。

心を揺さぶる建築

心を揺さぶるためにデザインされたフランス館は、感動を呼び起こし、人と人とのつながりを生み出す空間です。それは、時を超えて続く愛のように、軽やかさと確かな強さを兼ね備えた存在でもあります。フランス館は、詩的な体験へと誘い、五感を刺激する旅へと来場者をいざないます。





フランス流の優雅さを反映した宝石箱のような建造物

Coldefy & Associés Architectes Urbanistes エージェンシーとCRA-Carlo Ratti Associati事務所により設計された2025年万博のフランス館は、フランスならではのエレガンスとイノベーションを称賛する存在です。その外部構造は、あくまでも現代的なデザインで、洗練さを発揮しながら、現代性と詩的な要素を融合させています。

メインのファサードは堂々とした風格を感じさせます。このファサードはミステリアスな秘密を残しながらも訪れる人を引き付ける、劇場の舞台を思わせる巨大なカーテンに覆われています。柔らかさと女性らしさを象徴する、動きのあるドレープは、「愛」の赤い糸をモチーフとしています。

ピンクの銅で覆われたスロープは、光をさりげなく捉えて反射し、大きな曲線を描きながら、温かみのある光の戯れを生み出しています。この緩やかなスロープを上ることで、訪問者を物理的かつ象徴的な動きにより上方に招き入れ、没入型の体験への予感を抱かせます。スロープを進むにつれて視界が広がり、隠されていた建築が徐々に明らかになっていきます。

常設展示の一部である奇跡の庭園は、建物の裏側にあります。建物と庭園が一体となって、官能的で洗練された作品のようで、フランスの卓越性を心から祝っている様子を映し出しています。

環境負荷を押さえた期間限定の建造物

一時的な存在でありながら、フランス館は環境に配慮し、資源を無駄にしない設計が施されています。

パビリオンの各要素は再利用を前提に設計されており、施工業者によって構造の鉄骨やバックオフィスの技術設備などが新たな用途へと生まれ変わることが保証されています。

さらに、外壁の二重構造により建物の断熱性能が向上し、厳しい気候からの保護機能を果たします。

また、緑化された屋根は断熱効果を高めるとともに雨水を吸収し、敷地全体に心地よい微気候を生み出す役割を担っています。

肉体と魂の間：パビリオンの外側から内側へ

神秘的でありながら柔らかな表情を持つファサードは、まるで幕の向こうへと誘うように、来場者を迎え入れます。その先には、没入感あふれる感覚的かつ感情的な世界が広がり、訪れる人々を包み込むような体験が待っています。最初の数歩を踏み出すと、パビリオンの中心から響く鼓動のリズムに共鳴し、身体が振動し、足取りが自然とそのリズムに沿うのを感じるでしょう。

COFREXによって選ばれたフランス館のクリエイティブディレクター、ジョゼ・レヴィ（José Lévy）は、パビリオン内の公共スペース、ビジネスエリア、公式エリアのデザインを手がけました。彼はフランスの家具メーカーやデザイナーと協力し、フランスのクリエイションの魅力を存分に伝える空間を創出しました。

常設展の舞台美術が施された見学順路は、来場者の体験のメインとなっており、造形アーティストのジュスティーヌ・エマールと、ミュージアムデザインの専門家であるGSMプロジェクトスタジオの協力によって設計されています。フランス館の主要パートナー企業や、それぞれのアートチームと連携しながら、ジュスティーヌ・エマールとGSM Projectは、来場者を魅了する没入型の旅を創り上げました。



FRANCO
MILANO

来場者の体験ルート：没入型の感動的な旅へ

フランスは、主催国日本が掲げた「未来社会をデザインする」という挑戦に対して、「愛の讃歌」で応えています。この愛という感情は、フランスという国からしばしば連想される感情です。自分への愛、他者への愛、自然への愛。この愛は、伝統的な側面を忘れることはないとしても、現代性、そして、今世界が直面している複雑さを受けて、緊急性さえも示すことが求められているのかもしれない。

常設展示はフランス館の展示の要であり、4つの主要パートナーによるサポートを受けています。ラグジュアリー業界の世界的リーダーLVMH、中でも特にパリの二大ブランドである**LOUIS VUITTON**と**DIOR**から、また世界大手の保険グループ**AXA**、生産物の品質と環境への取り組みから他の追随を許さないテロワールから生まれる**LES VINS D'ALSACE**（アルザスワイン）、そして大きく成長中のバイオテクノロジー企業**NINAPHARM**からです。

この旅の中心には、「拍動」という概念が重要な役割を果たし、大きな軸となっています。人間の心臓の鼓動にインスピレーションを受けたこの拍動が、訪れる人をひとつの空間からまた別の空間へと導きます。この拍動は、流体型の舞台美術と没入型のサウンドアイデンティティによって命を吹き込まれ、感情や内観と共鳴するダイナミクスを生み出します。



© Coldefy & CRA-Carlo Ratti Associati



これはまた、フランスならではの卓越性とイノベーションのマニフェスト、その啓示であるような秘儀伝授の散策でもあるのです。私たちの国を旅するための招待状です。美しい風景・芸術・匠の技を持ち、経済的・科学的・文化的な強みを認識しており、クリエイター・学者・起業家に支えられていて、長い間日本との友情を大切にし、具体的または感度の良い多くの架け橋で日本の島々とその住人と結ばれているフランスの姿を明らかにするための、没入型の大きい旅なのです。

日本人や外国人の訪問者に素晴らしい時間を堪能していただきたいという想いはもとより、我々のチャレンジにはより深い意味があります。それは、この環境に置かれた人間の立ち位置を肯定することです。それは、人、社会、命の大切さを語ることです。その挑戦は、テクノロジーを人間と自然の役に立つものにします。その挑戦は、私たちの惑星を守り、そこにある多様性を維持することを目指します。その挑戦は、生命にいつまでも変わることのない意味を与えます。

そのために、その挑戦は、過去にも未来にも同じように語り掛けます。世界のどこを見渡しても、古くから存在する文明は、過去や歴史という長い時間の流れを大切に、それらを変革、進歩、変化の原動力としてきました。だからこそ、フランス館の常設展示では、歴史遺産的な要素と新しいテクノロジーを融合させるのです。

視覚、聴覚、触覚に訴え、一人ひとりが唯一無二の、パーソナルな体験をすることを可能にし、人々は、ここでの体験について個人的なビジョンを抱くことになるでしょう。それにもかかわらず、この体験は、共通の記憶、想像力、そして運命を生み出すべく、他者の経験と一つになりたいという希望を育みます。

つまり、これは単なる発見の旅ではないのです。関与することを呼びかけ、一人ひとりに自分を巻き込む世界や環境との関係性に思いを馳せることを求め、変化と責任への欲求を喚起するものなのです。

ガーゴイルと伝説—脆くも美しい遺産を語る同じ序章

入口に立った瞬間、訪問者は驚くべき雰囲気に入れられ、魔力を持った2匹の生き物を目の当たりにします。片やフランスを、そして片や日本を代表するこの生き物が向かい合い、これから始まる展示の予感を感じさせます。

パリ・ノートルダム大聖堂を襲った火災で奇跡的に難を免れたキメラの石像が静かにアシタカを見守っているのです。宮崎駿監督の映画『もののけ姫』のヒーローからインスパイアされた「呪いの傷を癒やすアシタカ」です。スタジオジブリが生み出した想像上のこのシーンが、フランスのクリューズ県、オービュッソんで、何世紀にも渡って受け継がれた技術で、臥機(ねばた)織りのタペストリーになりました。この風景は、日本のアニメーションの天才が森林破壊の波に飲み込まれるままにはしまいと願う、脅かされつつある現実を思い起こさせます。謎めいていながら詩情に満ちたこのタペストリーは、聖なる建造物と野生の自然の間に一つの繋がりを織り上げ、建築遺産の脆弱さと自然遺産の脆弱さの両方を象徴しています。またこれは、建造物の保存のためにも、原生林の保護のためにも戦う必要があることを訴えかけています。石でできているか木でできているかという違いこそあれ、両者はどちらも永遠性と、未来の世代への伝承を使命とする、文化と自然の繊細な均衡を保つための要素となっています。





Ashitaka soulage sa blessure démoniaque

Tapiserie, d'après une image tirée du film Princesse Mononoké

© 1997 Hayao Miyazaki/Studio Ghibli, ND

Tissage - Atelier Tapisserie Guillot, Aubusson 2023

© 2022 Collection de la Cité internationale de la tapisserie

© Photo par Studio Nicolas Roger



心を揺さぶる前奏曲—訪問体験の本質的な基盤

さらに数メートル進むと、高い吊り下げ式の歩道が大きな展示ホールを横切っています。そこでは既に、パビリオンの隅々にまで届く拍動の音が響き、来場者の足取りにリズムを添えています。この音響作品は、作曲家ローンがAXAのために独自に作成したもので、フランス国立音響音楽研究所（IRCAM）の専門技術を用いて、全ての空間にわたって展開されています。展示全体を通じて、この「拍動」は光の雲を横切ったり、進むべき順路と一体化したりしながら姿を変え、徐々に見えるようになっていき、その真の意味を最後になって初めて明かします。





Auguste Rodin (1840-1917)

*Main gauche de Pierre
et Jacques de Wissant*

Vers 1885-1886

Bronze, fonte Alexis Rudier

H. 33,2; L. 19; P. 12 cm

Musée Rodin, S.O1128

© Agence photographique du musée Rodin -
Jérôme Manoukian

そろそろ、このリズムに別の句読点を加える時が来ました。ロダン美術館から貸与されたオーギュスト・ロダンの彫刻された手が、今や常設展示の各空間の入り口で来場者に合図を送ります。鼓動する中心に、石のリフラインが応えます。それぞれの手は愛の仕草を表し、フランス館のもう一つのテーマである職人技を体現しています。



Auguste Rodin (1840-1917)

Mains d'amants

1904

Marbre

H. 44,5 ; L.56,9 ; P. 36,5 cm

Musée Rodin, S.O1108

© Musée Rodin - Photo © Christian Baraja

Avec le concours scientifique du musée Rodin.

**MUSÉE
RODIN
PARIS**





ルイ・ヴィトンは、美しい仕草と日本への愛の讃歌に据えられたトランクメーカーとしての歴史を、OMA事務所の日本人建築家重松象平とともに描き、新解釈を与えています。

ロダンの「ラ・カテドラル」の組み合わせられた手を囲むように、このブランドを象徴する85個のワードローブトランクが展示され、ルイ・ヴィトンに鮮やかなオマージュを捧げています。拍動は、IRCAM（フランス国立音響音楽研究所）によってアレンジされて、鼓動を打つ心臓のように、アトリエごとの個性に合わせたリズムで姿をあらわします。職人の精緻な所作は一つひとつのトランクに息づき、卓越した匠の技（ノウハウ）の秘密を見せつけています。

2つ目の部屋は、訪れる人を幻想的な世界へと運びます。トランクで囲まれたジオード（空洞）に生命が吹き込まれ、音楽は激しさを増し、壁はライゾマティクスの日本人アーティスト、真鍋大度によって制作されたビデオ作品と共に動き始めます。ルイ・ヴィトンが大切にしている、移り変わる幻影のような「旅」の解釈です。

LOUIS VUITTON



訪れた人々はそこで、AXAによる、世界における芸術と文化の保護と伝承に対するこのグループの取り組みを称えるユニークなサウンド体験、そしてビジュアル体験に没入します。AXAは、フランスとヨーロッパの文化と卓越性を世界中に広めるべく取り組みを続けてきました。

IRCAM（フランス国立音響音楽研究所）の演出に誘われ、来場者は音楽家のローン、振付家のアンジュラン・プレルジョカージュ、映画作家のティエリー・ド・メイという3人の並外れたアーティストによって創作された作品である、傑出した音響映像プロジェクションに没入します。

ローンの繰り返し響く電子音楽が記憶に刻まれていきます。アンジュラン・プレルジョカージュの振り付けは勢いと繊細さを見せつけます。ティエリー・ド・メイのカメラは、息のぴったり合ったユリエ、ローラン、ケヴィンの3人のダンサーを捉えています。彼らは共に、（赤い糸で）つながれた手の見えざる愛の糸を描き、パリという世界で最も美しい舞台に設けられたポンピドゥー・センターのテラスで、独創的で誰も見たことのない「パ・ド・トロワ」を繰り広げるのです。このサウンドシグネチャーから生まれる拍動が、フランス館が進む旅路にリズムを沿えます。そのサウンドはスペースそれぞれの独創性を強調しつつも、その中に一貫性を感じさせるものです。





Justine Emard ©ADAGP Paris, Studios GSM Project

こうして足を進めていくと、NINAPHARMによる奇跡の庭園に到着します。庭園の中心には、科学と自然の同盟の象徴である六角形の池があり、樹齢1000年のオリーブの木が迎えられています。この堂々たる樹木は長寿の源であり、人間にマイクロバイオーーム（微生物叢）をもたらし、自然の力を人間と共有する存在です。その樹皮をそつとなでれば、この木がもたらす恩恵を受け取ることができるでしょう。木が持つ、再生をもたらす恵み深い力を感じ取り、水面に愛の波を生じさせるでしょう。

GSM Project と ジュスティーン・エマール によってデザインされた庭園は、水鏡を中心に構成されています。この水の広がり、木の幹に映し出される自然の鼓動を映し出し、生命のリズムを感じさせます。

インタラクティブな仕掛けにより、水面に映る光景と人間の鼓動が共鳴し、新たな対話が生まれる空間となっています。





自然に包まれたこの旅は、アルザスワインがもたらす体験へと続いていきます。ワイン生産者は大地を宝石へと変身させるのです。ここで、来場者はアルザスのブドウ畑の地中深くに潜り込みます。アルザスの大地は、辛抱強く、頑固に大地の底を探るブドウの木の根のごとく、岩々に体を滑り込ませるように誘います。

アルザスのテロワールが持つ多様性に満ちた地下世界を数メートル探検すると、ひとつの亀裂が現れ、太陽の光に満ちた開けた空間に繋がります。宙に浮かぶ大きな水滴の粒が金色の光を放ち、アルザスワインという「液状の金」を表現しています。アルザスのワインの滴（しずく）は、ワインがぬくもりと分かち合いの媒体だと考えるフランス式ライフスタイルのシンボルともいえる和やかなテーブルの窪んだ場所に、時間という拍動と共に注がれるのです。ワインの滴は来場者に、テーブルの周りを囲むように誘います。この道のりは、人間の持つ匠の技（ノウハウ）を通じて、諸要素（土、太陽、水、ブドウ）を液状の金であるワインへと変える錬金術のプロセスを描いています。それは、自然だけでは生み出すことのできないものを作り上げるべく、生命のエネルギーを変換していく過程です。

VA VINS
ALSACE



この太陽の光のはざままで、ディオールの空間への扉が開かれます。

そこは、時間が止まったかのような特別な空間で、職人技と手仕事への愛を讃える壮大な旅へと誘います。1947年から続くディオールの夢の輝きを支えてきた伝統に敬意を表しています。

この空間では、パリのアトリエの卓越した技術が光り、毎シーズン、メゾンのコレクションが生み出されています。訪れる方を迎えるのは、ディオールのエレガンスを象徴する永遠の「バー・スーツ」です。ブルー、ホワイト、レッドの3つのバリエーションが、高級仕立て（オートクチュール）のフランスらしい美しさを表現しています。

旅はさらに続き、創造の鼓動に合わせて宙を舞うように揺らめく壮大なインスタレーションの世界へと導かれます。そこでは、立体的なシルエットのスケッチを表現した象徴的な白いトワールが浮かび、ディオールのアイコン的なフレグランスボトルが3Dプリントで再解釈され、美しく並んでいます。

この幻想的な空間を彩るのは、日本人デザイナー吉岡徳仁（Tokujin Yoshioka）の作品です。彼は2021年に、ディオールの歴史的アイコンである「メダリオンチェア」を再構築したことでも知られています。さらに、写真家高木由利子（Yuriko Takagi）による映像投影が、この夢のような舞台をより一層引き立てています。

この空間の演出を手がけたのは、ナタリー・クリニエール（Nathalie Crinière）です。彼女のデザインによって、ディオールと日本が創業当初から紡いできた深い絆が、鮮やかに輝いています。

DIOR





この最終章となる映像インスタレーションは、ジュスティーン・エマールとGSM Projectによって制作されました。視覚と音の鼓動が一体となる没入型の体験が広がり、来場者は映像の中心へと引き込まれます。その空間の中で、作品が持つ最後の響きを感じ取ることができるでしょう。

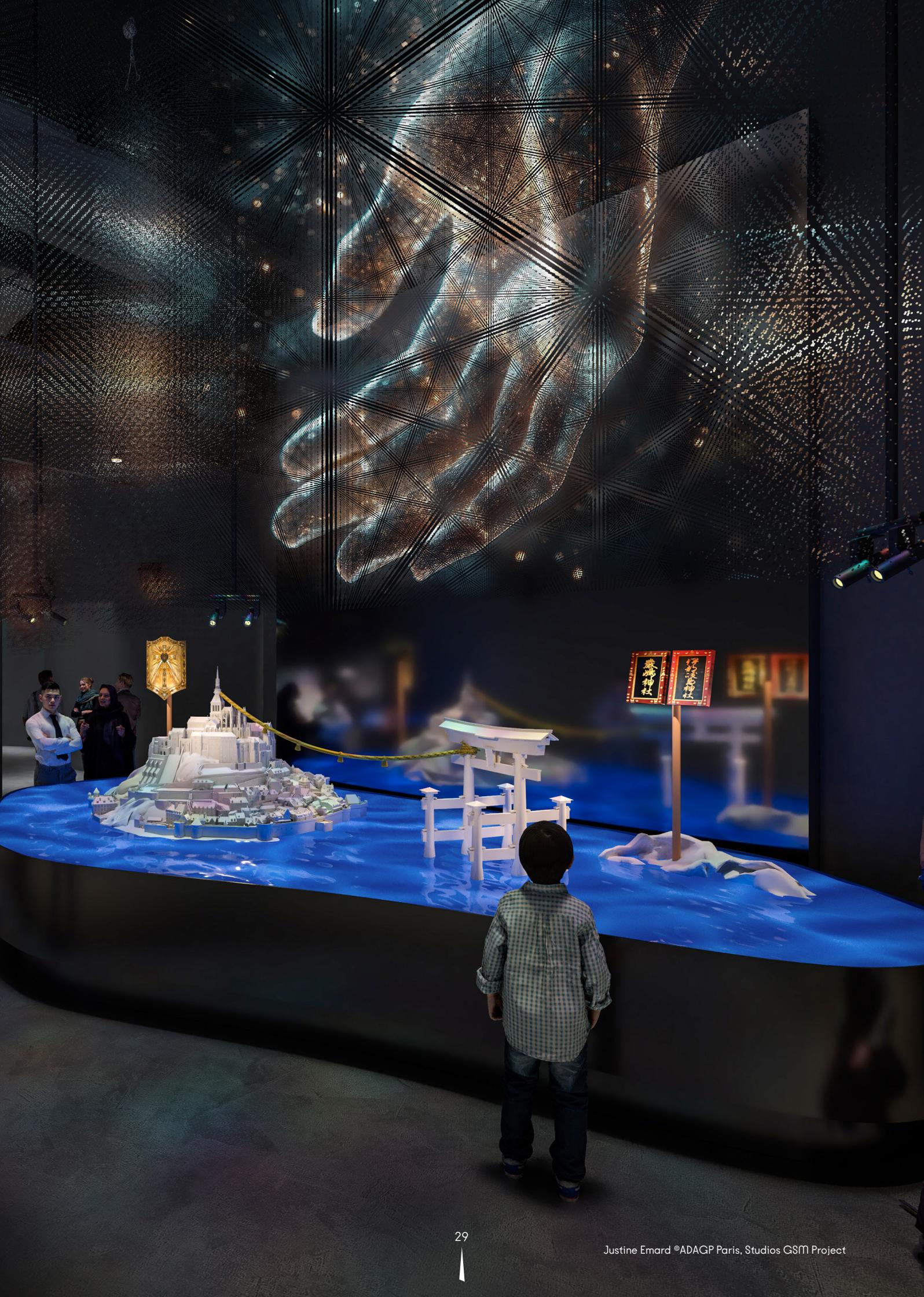
日本人には馴染み深い地形である列島が、スペース全体に広がります。そこにあるのは3つの島です。島の一つひとつが、フランスと日本が等しく抱く、独自の風景やアイコン的なモニュメントへの愛着を表現しています。そこには、遺産である対象が関連付けられています。その上に浮かぶ光の雲は、それぞれが特別な共通の物語を語っています。それは、これらの場所を守ろうとしてきた人々の物語です。この作品が伝えたいことは明白です。見る人に、文化遺産や自然のエコシステムを守ることを強く訴えかけているのです。そしてそれは、テクノロジーと伝統的な匠の技（ノウハウ）を組み合わせることによって可能となるのです。

最初の島は、ノートルダム大聖堂と首里城の再建を表現しています。この2つの建築はともに2019年に火災に見舞われましたが、経験と革新性を分かち合う、職人と才能ある人々という2つのチームが力を合わせ修復に取り組みました。

エコシステムの再生計画の恩恵を受けたモン・サン・ミッシェル修道院と、宮島の厳島神社にある大鳥居は、巨大な潮の満ち引きという共通点を持つ、2つ目のペアとなっています。潮の満ち引きを日々受けているこれら2つの聖地は、どちらも千年以上にわたって巡礼者たちを惹きつけてきました。また、両者ともにユネスコの世界遺産に登録されています。そして、歴史のある、活発な姉妹都市活動で結ばれています。

3つの島の最後は、太平洋の珊瑚礁の美しさに対するフランスと日本の情熱を、ボラボラ島と西表島の2つの島を想像して創作された作品を通して表しています。野生動物をモチーフとした2つの彫刻作品の片方は日本の保護動物の代表であるイリオモテヤマネコ、もう片方はポリネシア神話の護り犬であるパイホロです。この2つの動物が脅かされた大地を見下ろしています。彼らは、自然空間に対するタブーを設けることでエコシステムの保護をする伝統的なラフイ（Rahui）の実践によって、気候温暖化の被害を受けたサンゴが再生していく様子を見守っているのです。

この光景は結論であり、根拠づけでもありません。それは自然から来たものなのか人間の手によるものなのかを問わず、日本とフランスを結びつける絆の古さ、そして強さを証明しています。万国博覧会を経て、その絆はより強いものへと発展していきます。来場者一人ひとりがフランス館で得た経験に育まれながら、パビリオンを訪れる間共にした拍動のリズムで愛の讃歌を自身の中で響かせていきます。それは、人類の讃歌です！



衝撃的な感動とともに終わる見学

常設展示の見学後に、来場者は特別展示を見て旅を続けるよう促されます。2025年大阪万博の6ヶ月間、この活気ある空間は、セリーヌ（CELINE）、AXA & タラオセアン（AXA & TARA OCEAN）、原子力・代替エネルギー庁（CEA）、ショーメ（CHAUMET）などのフランス館のパートナーが上演する舞台美術のリズムに合わせて進化します。

では、「ラ・ブティック」へ足を踏み入れてみましょう。トリコ・サン・ジェームス（TRICOTS SAINT JAMES）とアルテウム（ARTEUM）が共同で運営するこのショップでは、フランス製の特別なアイテムを取り揃えています。その多くは、「生きた遺産企業（EPV）」に認定された伝統企業によって生み出されたものです。また、フランス館のスタッフの制服は、トリコ・サン・ジェームスが手掛けるスタイリッシュなデザインで統一され、フランスの職人技が随所に感じられる空間となっています。

グラン・パレ-国立美術館連合の鑄造工房

フランス館の広場では、グラン・パレ-国立美術館連合の鑄造工房によって特別に制作された等身大の彫刻4点が展示されます。これらの作品は、「愛の賛歌」を象徴する彫刻として、フランスの美術館に所蔵されている世界的に有名な作品の再現です。

この展示は、「生きた遺産企業（EPV）」の認定を受け、フランスの卓越した職人技として評価されているグラン・パレRMN鑄造工房の高度な専門技術と国際的な評価を反映しています。同工房では、伝統と革新を融合させた独自の技法を用い、オリジナル作品への敬意を込めながら芸術作品の複製を制作しています。

フランスの職人技の粋を体現するこの工房は、数世紀にわたり情熱をもって活動を続けてきました。その作品は、美術教育、文化普及、オリジナル作品の保護、装飾、現代アートインスタレーションなど、さまざまな目的で活用されています。

今回の展示を通じて、フランスの遺産や職人技の魅力を国際的な舞台で発信するとともに、世界的なイベントの一環としてその価値を高めています。なお、これらの複製作品は、万博終了後にアジア各地を巡回展示する予定です。

GrandPalais
Rmn





Aphrodite dite type Vénus Génitrice

L'œuvre originale en marbre est une réplique romaine d'un prototype grec disparu de la fin du V^e siècle av. J.-C.

Paris, musée du Louvre
H. 163 × L. 51 × P. 42 cm

Reproduction en résine chargée de marbre
Le moule ayant servi à cette reproduction a été réalisé sur l'original.

© François Guillemin



Apollon du Belvédère

Copie romaine en marbre de l'époque antonine d'après un original grec en bronze attribué à Léocharès,

sculpteur de la deuxième moitié du IV^e siècle av. J.-C.
Italie, Vatican, musées du Vatican

H. 234 × L. 162 × P. 110 cm

Reproduction en résine chargée de marbre

Le moule ayant servi à cette reproduction a été réalisé sur la réplique en bronze de Fontainebleau commandée Par François Ier au Primatice au XVI^e siècle

© François Guillemin



Mercury enlevant Psyche

Adriaen de Vries (1545-1626)

Cœuvre originale en bronze, Vers 1593

Paris, musée du Louvre
H. 267 x L. 97 x P. 104 cm

Reproduction en résine chargée de marbre

Le moule ayant servi à cette reproduction a été réalisé sur l'original.

© François Guillemin



Psyche ranimée par le baiser de l'Amour

Antonio Canova (1757 - 1822)

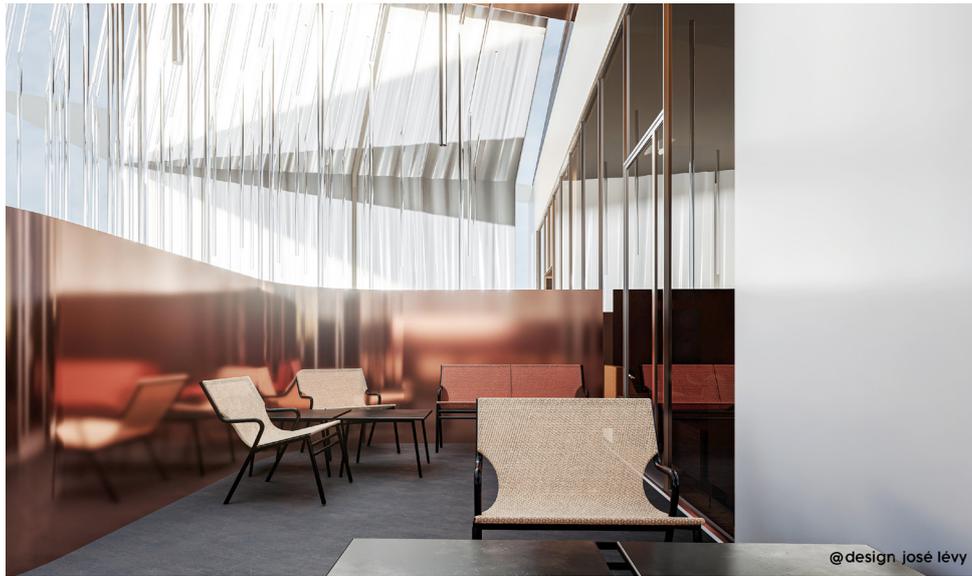
Cœuvre originale en marbre, 1793 - Paris, musée du Louvre

H. 155 x L. 168 x P. 101 cm

Reproduction en résine chargée de marbre

Le moule ayant servi à cette reproduction a été réalisé sur une impression 3D.

© François Guillemin



美食のひとときと職人技に触れる最後の寄港地

来場者は、エリック・カイザー社の監修を受ける、1階のベーカリー（*La boulangerie*）またはビストロ（*Le Bistrot*）でグルメなひとときを楽しむことができます。このスペースは一般来場者もプロフェッショナルもアクセス可能で、フランス式ライフスタイルの良さを伝える場となっています。

"フランス館の受付スペース（展示エリア以外）のデザインは、ジョゼ・レヴィ氏が手がけています。その一環として、ビストロの家具は特別にテクトナが製作し、モビリエ・ナショナルとの協力のもとで開発されました。このプロジェクトは、ヴィラ・ノアイユとそのディレクターであるジャン＝ピエール・ブラン氏と共に進められたプロジェクト公募を経て実現しました。

このコンペで選ばれたのは、ジャン＝バティスト・ファストレ氏のデザインで、「*Grenouille*（日本語で『カエル』）」と名付けられた特別な家具シリーズです。このデザインは、フランス館のテーマである「愛への賛歌」を象徴し、自然との対話を通じてその理念を表現しています。"

万博開催期間中の6か月間、ビストロでは、フランスの卓越したワイン文化を体現する特別なワインリストが提供されます。特に、78のアルザス地方のワイナリーから厳選されたワインが登場し、15日ごとにラインナップが入れ替わることで、多彩な味わいを楽しむことができます。

これらのアルザスワインは、以下の4名の著名なソムリエによって試飲・選定・解説されました。

- 田崎真也氏（1995年 世界最優秀ソムリエ）
- セルジュ・ダブス氏（1989年 世界最優秀ソムリエ）
- 森 寛氏（2008年 日本最優秀ソムリエ、2009年 アジア最優秀ソムリエ）
- グザヴィエ・テュイザ氏（2022年 フランス最優秀ソムリエ、2022年 フランス最優秀職人賞受賞）

この特別なワインリストは、70%がオーガニックまたはビオディナミ（自然派ワイン）で構成されており、さらにMoët HennessyとAXA Millésimesの厳選ワインも加わります。

デジタル時代における リアルなパビリオン

オンラインとリモートでの来訪をすべての人びとに可能にする

COFREXは、できるだけ多くの人々がパビリオンにアクセスできるようにするために、誰もがリモートでパビリオンを来訪できるようにしています。現地に行くひとがほとんどいないフランス人、諸国の一般市民だけでなく、展示会のファサードしか見ないすべての来場者も対象ですが、それはパビリオンが来場者の約10%しかお迎えできないからです。

この目的のために、建設されたときの建造物と常設展示の姿を忠実に再現した、高品質の360°動画の形で、ガイド付きツアーが提供されます。さまざまな追加コンテンツにより、来場時に提供される作品や環境を詳細に理解することができます。

来訪は、パーソナルスクリーン、携帯電話、タブレット、コンピューターを介して行うことができますが、バーチャルリアリティヘッドセットを使用して、室内プロジェクションの形でも行えます。そのため、かなりの数の公的パートナーが、フランス国内および世界各地で、パビリオン来訪プログラムを実施するように提案をします（アリアンス・フランセーズ、アンスティテュ・フランセ、マイクロ・フォーリー・ネットワーク）。



Visite de travail en immersion dans le Téléport 1/1 du Pavillon France.

テレポート1I1によるイノベーションと遺産の融合

Dassault SystèmesとCofrexは、パビリオンのバーチャルツイン（仮想双子）を活用した没入型のコラボレーション体験を実現するために、プロトタイプソフトウェア「Teleporteam」を開発しました。この技術により、建築家、展示デザイナー、運営チームが実際のスケールでパビリオンの最終調整を行うことが可能になっただけでなく、公的・民間パートナーが開館前からプロジェクトに参加できるようになりました。この「テレポート1I1」は、シャイヨーの丘にある「建築・文化遺産都市（Cité de l'architecture et du patrimoine）」に設置されています。シャイヨーの丘は、これまでに数多くの万国博覧会が開催されてきた歴史ある地であり、ここを拠点にダッソー・システムズの技術が、実物大のバーチャルリアリティを活用した新たな建築・文化遺産の活用法を提案しています。

アジェンダ

184日間にわたる充実した参加型プログラム

フランス館では、4つの特別展と12のテーマ別イベント（15日間ごと）が開催され、常に変わり続ける体験を提供します。

企画展示

時代を超越したラグジュアリーから、海洋探検や先駆的な技術の最先端まで、フランス館は魅力的な毎月のイベント、企画展示を開催しています。ヒリーヌ、アクサ&タラオセアン、CEA、ショーメなどの一流パートナーが提供するこれらの展示会は、各当事者がそこでフランス館のために特別にデザインされた未公開の展示を披露するという、ユニークなアプローチの一環です。1階にあるこの専用スペースでは、フランスの卓越性と創造性を称えつつ、現代の主要な問題に関わるテーマとして、各展示会がフランスの匠の技のノウハウを再評価し、あらゆる形態の芸術に焦点を当てます。

セリーヌ CELINE

セリーヌは、その卓越したレザーグッズの技術と、日本の文化や職人技との深い絆を称え、伝統的な日本の漆芸「うるし」と、パリのメゾンを象徴する「トリオンフ」との対話を通じて表現します。1か月にわたる本展では、アーティスト中村宗史氏と彦十蒔絵氏による視覚的な作品、そして限定の特別なアイテムが披露されます。

会期：2025年4月13日～5月12日

タラオセアン財団とアクサ（AXA）グループ

Fondation Tara Océan & AXA

会期：2025年5月13日～6月10日

CEA

会期：2025年6月11日～7月10日

ショーメ CHAUMET

240年以上の歴史を持つナチュラルリストのジュエラー、ショーメが、象徴的なハニカムを通じて、生きた自然とその美しさへの愛を称える感覚的な旅へと誘います。

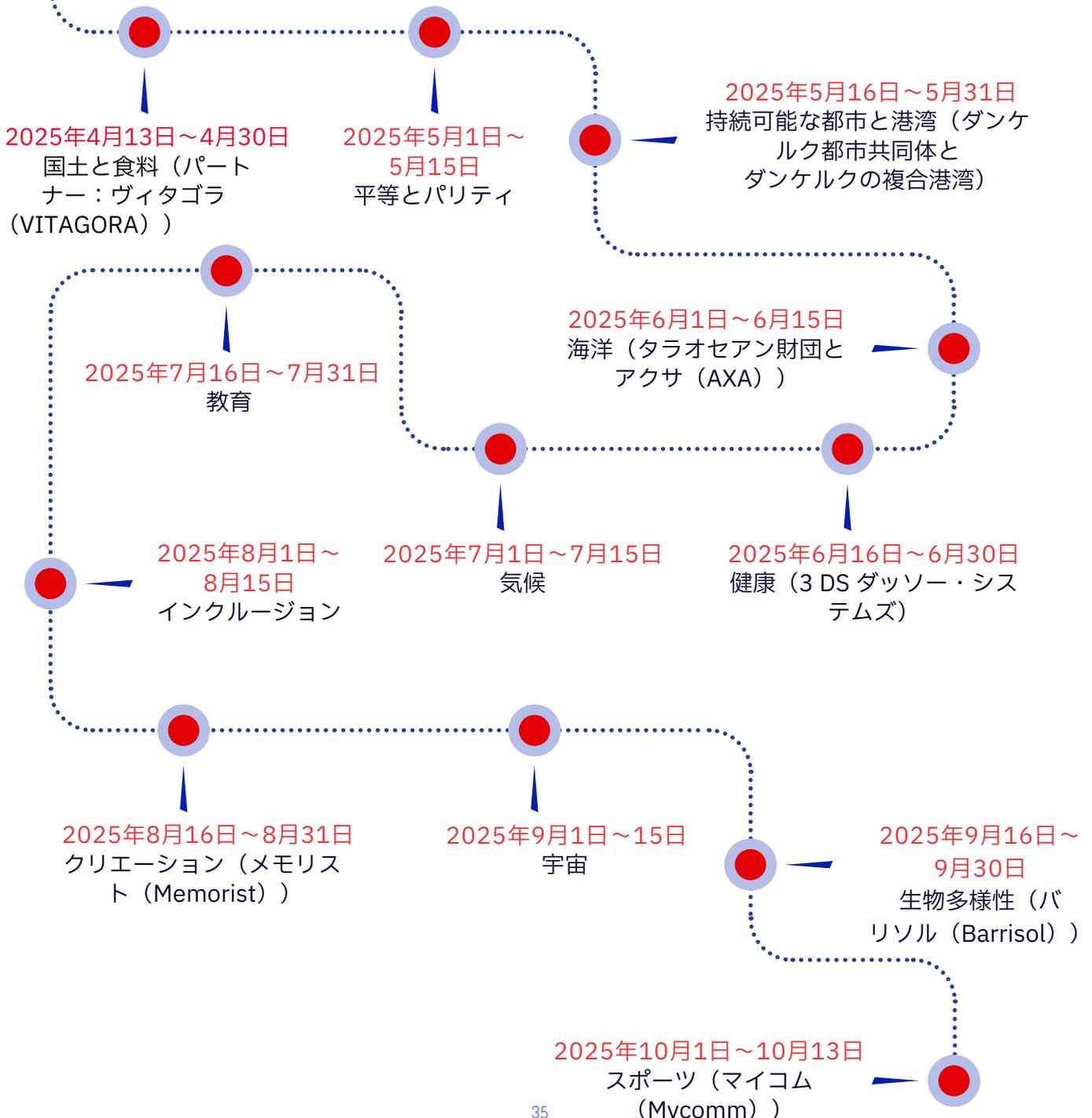
会期：2025年8月28日～10月13日

スペシャルデーとテーマ別2ウィークス

並行して、フランス館では、現在の地球規模の問題に取り組むテーマ別2ウィークスを用意しています。

未来を作るための12のテーマ別2ウィークス

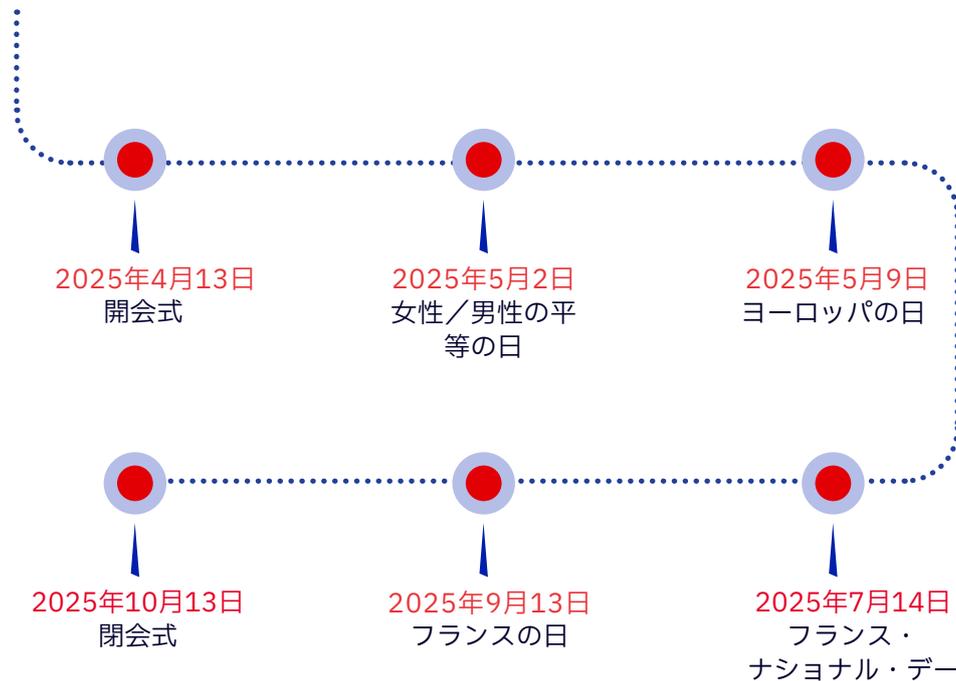
プログラムの中心となるテーマ別2ウィークスは、会議、対話/円卓会議、上映会、ショーなどを通じて、現在のグローバルな争点を反映したさまざまなテーマを取り上げています。各2ウィークスは、来場者が一線で活躍する証人や専門家と出会い、持続可能な世界のための挑戦やソリューションについての議論に参加する良い機会となります。いくつかのパートナーがすでに参加の確認をしており、各テーマに具体的かつ地域的な意味をもたらしています。



フランスの卓越した魅力を称賛する6つの企画展

2025年大阪・関西万博の6ヶ月間にわたり、フランス館は、計画のハイライトであるスペシャルデーを設けてアジェンダを盛り上げます。これらのイベントは、戦略的・文化的な交流を促進すると同時に、フランスを象徴する価値観、コミットメント、祝賀行事に焦点を当てています。

これらのスペシャルデーには、政府代表団、各種機関の関係者、フランスおよび日本のパートナーを迎えます。地元の関係者やフランスの企業・団体と共に、共同プロジェクトや戦略的な議論を交わす貴重な機会となります。対話と協力を促進する場として、フランスと日本の絆を一層強化することが期待されます。さらに、フランスはフランス館の枠を超えて、万博会場内のさまざまなスペースやステージを活用し、特別なイベントを開催する機会も得られるでしょう。



イベントスペース：交流の発信地

2025年大阪・関西万博のフランス館に設けられるイベントスペースは、経済・文化交流の場として、パートナー企業、地元の関係者、各種機関によるイベントの開催を目的としています。ジョゼ・レヴィ氏が手がけたこの空間は、本格的なビジネスセンターとして設計されており、企業や団体が未来の協力関係や共同プロジェクト、パートナーシップについて議論できる場となります。フランスとの結びつきを深め、その革新性を体現する場として、多くの人々が集う拠点となるでしょう。



@design José Lévy



4人のアンバサダー

フランス館は、4人の卓越した人物の支援を受けています。彼らは「本物志向」「情熱」「コミットメント」という価値観を体現し、日本の一般の方々にも広く知られています。

〇〇 2025年大阪万博において、フランスパビリオンのパートナーとして、私たちの国を代表できることを心から嬉しく思っております。万博への出展は、フランスが持つ文化遺産や、私たちのクリエイティブ精神を世界に伝えるとともに、フランスのまさに象徴とも言えるサヴォワフェールに光を当てる素晴らしい機会だと思っています。

〇〇



© Elsa Trillat

ソフィー・マルソー
(Sophie Marceau)



テディ・リネール
(Teddy Riner)

〇〇 柔道という、日本発祥の素晴らしいスポーツは私の人生、そして私の価値観の源となっています。柔道のおかげで、私は、心から愛する国、フランスの国旗を高く掲げるという榮譽にあずかることができました。フランス、そして日本という、私にとって大切な国への大きな誇りと愛情から、私は、大阪万博フランスパビリオンのパートナーを務めることにいたしました。パートナーとなることは、両国を結ぶ絆を祝福し、両国それぞれの良さを皆さんと分かち合う、素晴らしい機会となると考えています。

〇〇



**アントワーヌ・デュポン
(Antoine Dupont)**

〇〇 2025年大阪万博にて、フランスパビリオンのパートナーとして、素晴らしいメンバーと共に忍耐強さ、連帯、そして多様性という価値観をお伝えできることを光栄に思っています。私が愛してやまない日本が持つ素晴らしいおもてなしの心と、スポーツに見られる卓越性を追求する精神を知っているからこそ、私はこの展示会をフランス人、日本人、そして世界の全ての人々と大きく祝福したいと考えているのです。〇〇

〇〇 2025年大阪万博フランスパビリオンにおけるパートナーになる機会をいただきましたことを心から嬉しく思っております。数々のイノベーションを目にし、この歴史的イベントでの格別な体験を多くの人と共にするのを今から心待ちにしています。〇〇



**レア・セドゥ
(Léa Seydoux)**

COFREXとそのパートナー

COFREXについて

2018年1月設立の公営企業COFREX SASは、万国博覧会や国際博覧会へのフランスの出展の事前準備、組織、実施を専門とする初の常設機関です。これまでの展示会の経験に基づき、コストと負担を最小限に抑えつつ最高のパフォーマンスを発揮する、サステナブルなアプローチを実現します。官と民のパートナーシップで構成されています。フランスのイメージと魅力を打ち出します。

<https://www.cofrex.fr>

パートナーについて

2025年大阪万博のフランス館は、多様な関係者やステークホルダーを通じて、フランスの魅力を高めることを目標としています。

分野、規模を問わない約50のパートナーと提携し、フランス館はフランスの大胆さと匠の技（ノウハウ）を伝えるための素晴らしい展示の場となります。大企業からスタートアップまで、伝統工芸企業、地方自治体、商工会議所、財団、公的機関、文化施設、メディアなど。パビリオンのパートナーは、技術、教育、環境、エネルギー、文化、科学、農業、ライフスタイル、健康、そしてラグジュアリーといった多くの分野におけるフランスの専門性を輝かせることとなります。

パビリオンのパートナーは、フランスの地域の多様性および日本に進出しているフランス企業の多様性をも反映しており、世代を超えた人材の大きな集まりとなっています。



LVMH

ラグジュアリー業界の世界的リーダーであるLVMHは、2025年大阪万博フランスパビリオンのパートナーとなることを誇りに思っています。1987年設立、ベルナール・アルノーが率いる当グループは、ワイン&スピリッツ、ファッション&皮革製品、香水&化粧品、時計&ジュエリー、セレクトティブ・リテーリング、そしてメディア&ホスピタリティといったラグジュアリー業界の重要分野で75以上のブランドを展開しています。

日本においては、LVMHは14,000人（世界全体では215,000人）の従業員を雇用し、千店舗を運営する民間最大の雇用主となっています。LVMHグループとLouis Vuitton、Dior、Celine、ChaumetそしてMoët Hennessyの各ブランドはさまざまな角度から2025年大阪万博フランスパビリオンを支援することで、フランスの独創性とサヴォワフェールの世界に伝え、日本の皆様、そして世界各地から展示会を訪れる皆様に夢をお届けできるよう、尽力することをお約束します。

2025年大阪万博におけるLVMHとフランスパビリオンのパートナーシップは、卓越性と模範性、伝統と革新という、我々のブランドに息づくフランスのサヴォワフェールの価値観を強調するまたとない機会です。日本は当グループにとって、特別な地位を占めています。数十年間にわたり我々は、文化的対話とアイデンティティの尊重を通じて、伝統と自然への愛を共に大切にしてきました。こうして年を経るごとに、両国はますます強く、そして調和のとれた絆を築いてきたのです。

ベルナール・アルノー、LVMHグループ会長兼CEO



保険業界における世界的リーダー、AXAグループは、フランスで生まれた国際企業であり、現在147,000人の従業員を擁し、50か国で9,400万人の顧客にサービスを提供しています。

過去40年間、AXA従業員は業界革新を行いつつ、大切なものを守ることによって人類の進歩を促進することを目指してきました。現在、トーマス・ブベルが率いるAXAグループは1994年に日本に進出し、9,000人の従業員を擁しています。

2025年大阪万博への参加は、私たちが1994年より事業を続けている日本という国への深い愛情のしるしです。また、フランスパビリオンに貢献することで、当社が常に守り、世界に発信し、そして次世代に引き継いできた、芸術、文化、そして創造への愛を称えたいと考えています。

トーマス・ブベル、AXAグループCEO

アルザスワイン委員会（CIVA）は、アルザスのブドウ園を営む3,000のワイン栽培家族と700の市場投入者のための取り組みを行う団体で、フランスおよび世界に向けてアルザスワインをPRし、その素晴らしさを伝えています。また、同委員会は経済的側面からの研究・管理を推し進めると同時に、アルザスのブドウ畑を保護し、将来の課題に対応すべく、技術研究開発ミッションに投資を行っています。

アルザスと日本の間で行われてきた160年以上にわたる通商の歴史を受け、今、日本の人々はアルザスワインに関する深い知識を持ち、高い関心を寄せています。日本にワインを輸出する生産者は200以上にのぼり、日本市場がアジア・太平洋地域戦略における最も重要なポジションを占めていることが分かります。さらに広い意味では、アジア大陸は、アルザスワインに非常によく合う料理が特長の、高いポテンシャルを持つ市場であり、ワイン生産者にとって戦略的に重要な地域となっています。

 この大阪万博への出展を通じて、アルザスワインは、自らが体現しているのはフランスの卓越性であるということ、そこには将来の世代に向けた期待や希望が込められていることを証明しつつ、アルザスが現代においても世界で最も注目すべきワインの舞台であることを、広くアピールしていきたいと考えています。

セルジュ・フライシャー、CIVA委員長



アヌシーに拠点を構えるNINAPHARMはモンブラン山塊の中心部に研究所を設立し、マイクロバイームとミトコンドリアを活用して人間のエネルギーを向上させるという、独自の長寿処方を研究しています。

登山家やエベレストの先駆者らと密な協力関係を築きながら、研究結果を極限の状況でテストし、登山家らにどのような影響を及ぼすかを分析しています。これらの研究をもとに開発した革新的なアンチ・エイジングイノベーションは、スイスやその他の国の著名な長寿研究クリニックに認められています。

NINAPHARMは日本で20年以上事業を展開しており、現在、同社の処方薬は30,000人を越える医師からなる広大なネットワークにおいて最適な寿命を提供すべく使用されています。

 NINAPHARMは2025年大阪万博フランスパビリオンのゴールドパートナーとなることで、新たな領域に達しようとしています。自然は、非常に洗練されていながらも全ての人の手に届く健康ソリューションを提供してくれる存在です。2025年の大阪万博は、同社にとって、フランスパビリオンにお越し下さる皆様と長寿の秘薬を分かち合うユニークな機会となるでしょう。

マイテ・ブルノー、NINAPHARM社長

シルバーパートナー



ダッソー・システムズ (Dassault Systèmes) は人間の進歩を加速させていきます。1981年以来同社は、消費者、患者、市民の生活を向上させるべく、現実生活に役立つ仮想世界の構築を進めてきました。同社が手掛けるプラットフォーム、3DEXPERIENCEを用いることで、様々な規模・業種の350,000にのぼるクライアントがコラボレーションし、大きな影響力を持つ持続可能なイノベーションを考え、創り上げることが可能となっています。詳しくはこちらをご覧ください。www.3ds.com



Forvis Mazars Group SCは、プロフェッショナル向けサービスの大手ネットワーク、Forvis Mazars Globalの独立メンバーです。Forvis Mazars Groupは、監査、税務、コンサルティングを専門とし、100を超える国と地域で国際統合パートナーシップとして事業展開を行っています。統合型パートナーシップでは、世界で35,000人を越えるプロフェッショナルからなる同社チームが持つ専門知識と文化的多様性を活用し、あらゆる規模、あらゆる発展段階のクライアントのサポートに注力しています。詳しくはforvismazars.comをご覧ください。



ゴールドパートナー

LVMH
LOUIS VUITTON DIOR



VINS
ALSACE

NINAPHARM

シルバーパートナー

DASSAULT
SYSTEMES

forvis
mazars

ブロンズパートナー

CELINE

CHAUMET
PARIS



IGIENAIR
AIR QUALITY MONITORING

orange

Fondation
tara océan
RESEARCH IN OCEANOGRAPHY

c22

提携パートナー

JOSÉ
LÉVY

Moët Hennessy

SAINT JAMES
PARIS



JAPAN NEXT

NEXO

AQUATIQUE SHOW

テーマ別パートナー



MYCOMM.

MEMORIST
HERITAGE & BEYOND

Vitagora
Heritage de la France

Dunkerque
Grand Littoral
COMMUNAUTÉ URBAINE

Dunkerque
Sport

BARRISOL

メディアパートナー

MCDcaux

支援パートナー

FONDATION
CARMIGNAC

SAINT-GOBAIN

FONDATION
BNP PARIBAS

TECTONA
PARIS

機関投資家パートナー



CCI FRANCE JAPON
在日フランス商工会振興

COMITE
ECONOMIQUE
FRANCO
JAPONAIS

LES CONSEILLERS DU COMMERCE
EXTERIEUR DE LA FRANCE



ANEPV

SAVOIR
FAIRE
FRANÇAIS



montsaint
la baie, le village, l'église



GrandPalais
Rmn

MUSÉE
RODIN



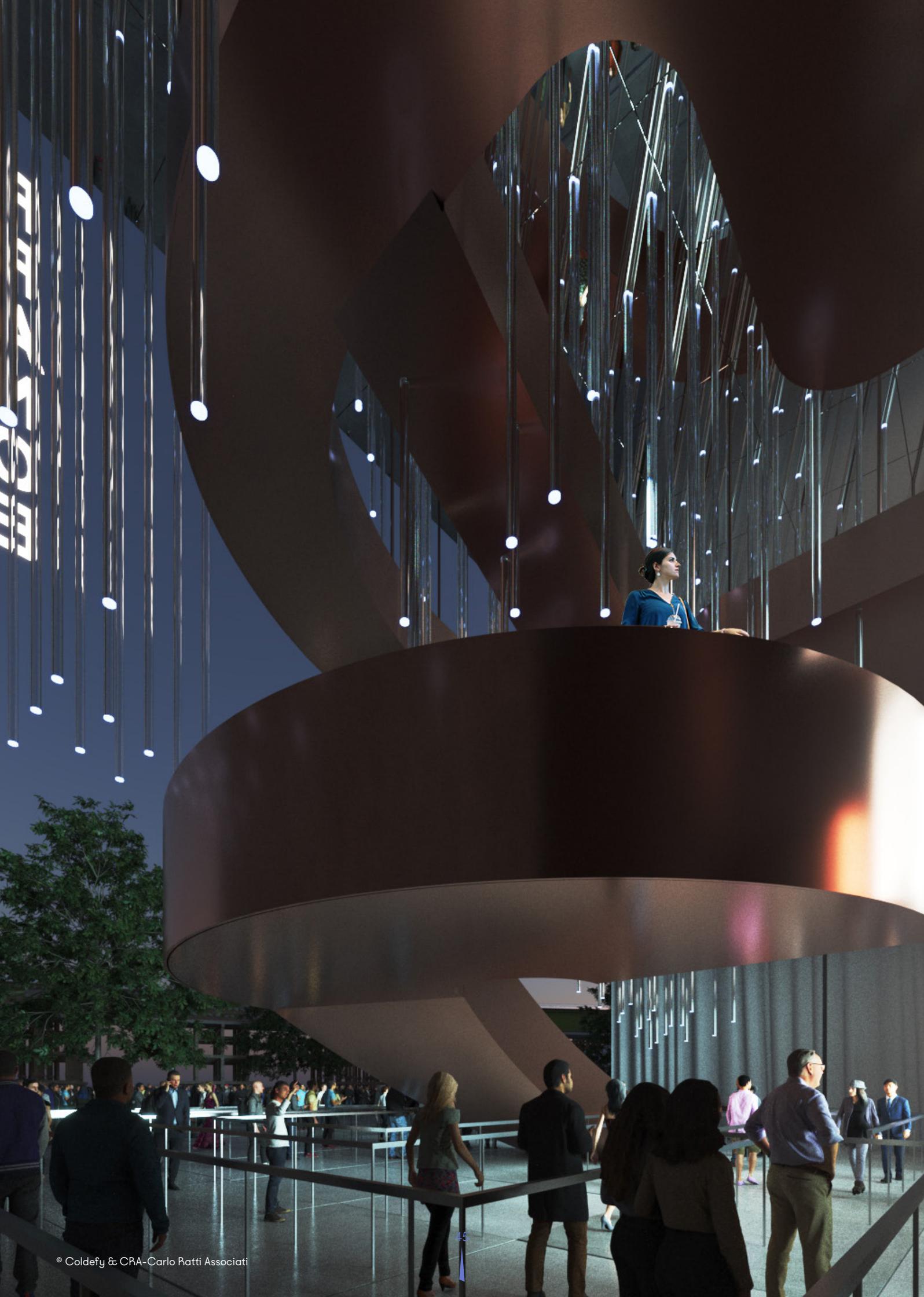
ブティック代理店

ARTEUM
SAINT JAMES



ビストロとブーランジュリー・パティスリー代理店

COFREXは、フランスパビリオンの4色のコレクターズエディションを提供してくださったBIC社に心より感謝申し上げます。



ITALIA
2015

実用ガイド

大阪滞在とフランス館見学

1970年に続き2回目、日本全体としては2005年の愛知万博を含め3回目となる万国博覧会が大阪で開催されます。イベントの開催が目前に迫り、壮大なものになることが期待されています。世界各国から約2,800万人の来場者が訪れる見込みです。大阪の街は活気に満ち、世界的な祭典を楽しむに多くの来場者を迎える準備が整っています。

各国のパビリオンへのアクセス、宿泊施設の確保、移動手段の手配などを考慮し、万全の準備を整えましょう。2024年10月13日より、公式チケット販売がスタート。万博を存分に楽しむために、早めのチケット購入と計画をおすすめします。

大阪を探索する、日本文化を象徴するダイナミックな街

大阪を訪れるということは、ダイナミックでモダンな都市を探索しながら、日本文化の本質に身を投じることです。たこ焼きやお好み焼きなど、その象徴的なストリートフードで有名な大阪は、食いしん坊にとっては真の目的地といえます。美食の歓びだけでなく、市は歴史的な遺産である、正に市の象徴といえる荘厳な大阪城や日本最古の仏教寺院のひとつである四天王寺など、だれもが認める景勝地で特徴づけられます。

来訪者はまた、「ユニバーサル・スタジオ・ジャパン」や世界最大の水族館のひとつである「海遊館」などの主要観光スポットを探索することもできます。市内で脈打つ心臓ともいえる、道頓堀の賑やかな一画は、ブティック、バー、きらめくネオンのはざままで震えている夜の気配というものをみせてくれます。

加えて、大阪は隣接する都市、京都や奈良に日帰り観光ができる理想的な位置にあり、日本について多様な経験ができます。こういった中で、2025年の大阪万国博覧会の開催中に夢洲のフランス館を訪れることは、この手の発見にぴったりと組み込まれており、来訪者は街の素晴らしさを楽しみながらフランスの匠の技を探求することができます。

博覧会場である「夢洲」に向かう

1970年代に埋立て用地として開発された夢洲は、観光複合施設と物流インフラが統合された近代的な都市の中心地を目指して再開発されました。ここに2025年大阪万博を配置しようという決定が公式に認められたのは、2018年に大阪市が落札したときです。そこで、日本の中心であるここ大阪湾に、2025年大阪万博の会場デザインプロデューサーに任命された、著名な日本人建築家、藤本壮介氏が思い描いた建築コンセプトが建設されるのです。

パリ、ロンドン、フランクフルト、ロサンゼルスからの飛行時間は12時間で、大阪はいくつもの通常直行便で簡単にアクセスすることができます。博覧会場から約50kmの関西国際空港（KIX）に到着すると、この機会のために特に強化された地下鉄やバスを含む効率的な公共交通網の活用ができるので、来場者は約1時間で夢洲に到着できます。有名な「新幹線」という超高速列車も、東京や京都といった他の日本の主要都市から利用ができ、大阪へのアクセスを容易にしています。

万国博覧会の開園時間は9時から22時ですが、すでに大阪にいるのならば、大阪メトロ中央線の夢洲駅まで、地下鉄で簡単に行くことができます。





今すぐ入場チケットを予約する

2025年大阪・関西万博には、公式サイトからアクセスできるオンラインチケットシステムを使用することで、入場ができます。博覧会開催中は会場でチケットを購入することが可能ですし、日本の一部の旅行代理店やコンビニエンスストアで直接購入することもできますが、事前に予約されることを、特にピーク時については、強くおすすめいたします。フランス館に優先入館できる、より迅速に入り口に行き着くことができるという、特別チケットもご利用いただけます。

万国博覧会のチケットをオンラインで購入する場合、方法は簡単で、スマートフォンやパソコンから、Expo 2025の公式サイトに行き直接行うというものです。最初のステップは、ExpoIDを作成することです。ExpoIDは、サービスへのアクセスを容易にし、現地でのシームレスな体験を保証する唯一の識別子です。このIDを作成すれば、オンラインでチケット購入が可能で、事前購入や空き時間枠を選ぶなどの割引料金を含んだオプションをご利用になれます。購入後、来場日時を予約する必要がありますが、これは、会場へのアクセスを管理するための必須条件です。その後、パビリオン、展示会、イベントへの訪問を計画することができますが、事前予約が必要なものもあれば、並ぶ必要があるものもあります。最後に、来場当日には、購入時に受け取ったQRコードを提示するだけで、会場に入り、選択していたアクティビティにアクセスができます。

詳細情報：

チケット購入ガイドを参照してください / さまざまなタイプのチケットをご覧ください



すべての人にインクルーシブでアクセスが可能な体験を

2025年大阪万博とフランス館は、すべての人のアクセシビリティに特に注意を払っています。移動困難者（PRM）のためのアクセス対策は、メインエントランスからパビリオンまで、進路の各段階で統合されています。すべての来場者に快適でインクルーシブな体験を確実に保証するために、エレベーター、スロープ、適切な休憩所が用意されています。

夢洲の会場には、大阪の中心街から直通の地下鉄線で、公共交通機関を使って簡単にアクセスできます。毎日最大13万人の利用者を収容できるように設計された夢洲駅には、推奨位置を明確に示す革新的なLED信号システムが装備されています。これにより、不規則な動き防ぎ、乗客の安全性を高めることができます。このシステムは、使用者が列に並ぶことを促進するので、交通をよりスムーズにします。さらに、この駅は、移動困難者（PRM）のアクセシビリティを保証するために特別の設計がなされており、困難な移動行程を容易にするためのインフラが備わっています。また、この駅には大阪で初めての「オールジェンダー」用トイレが設置されたので、すべての人にインクルーシブな体験を保証し、性別を問わずにあらゆる人びとに安全で敬意のある空間を提供します。また、このトイレはご家族、障がいのある方、ノンバイナリーの方へのニーズにも応えます。

移動を円滑に進めるために、定期的なシャトル便のサービスも提供されます。PRM車両専用のスペースを含む駐車場は、入り口のすぐ近くに用意されています。

このように、各来場者はこのユニークな体験を最大限に享受できるので、居心地の良い雰囲気の中で世界の文化の豊かさを見つけ出すことができます。



2025年大阪・関西万博：

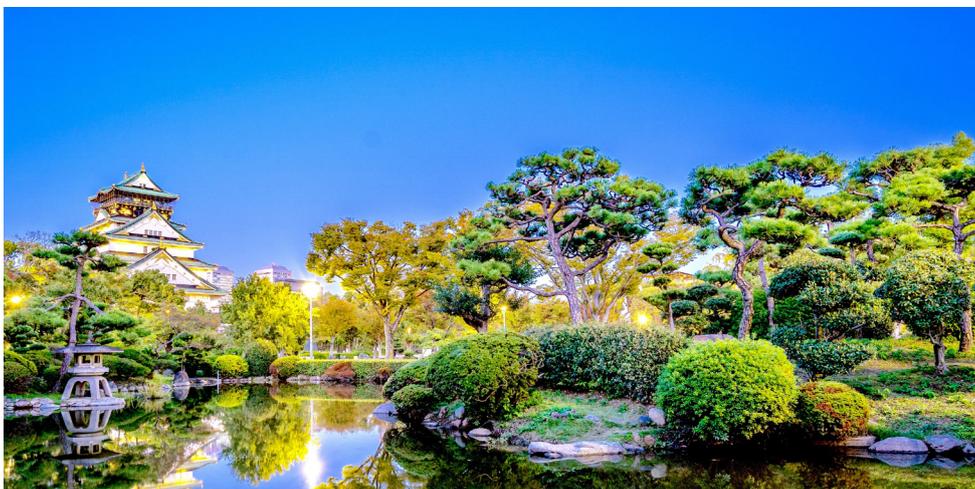
刹那的なものを超えた、建築中の未来

2025年大阪・関西万博は、大阪地域にプラスのインパクトを与える持続可能な遺産となるでしょう。実際、この博覧会は世界的なイベントとしてだけでなく、大阪市の将来の都市開発のための触媒としても設計されました。夢洲の敷地は、ダイナミックな活動拠点となるための新たな役割を与えられ、「スマートシティ」へと生まれ変わります。この野心的なプロジェクトには、最新化された交通インフラ、リゾート複合施設の建設、毎年何百万人ももの来訪者を魅了する革新的な不動産開発が含まれます。

このような夢洲周辺の都市と社会の進化は、島を再定義するプロセスの一環であり、持続可能なテクノロジーと新しい出会いのスペースを統合するプロジェクトが行われており、これが住民と来訪者の生活を豊かにしていきます。この新しい地区の開発は持続可能な変革を体現するものであり、万国博覧会は現在の構想を挙げるだけでなく、終了した後もずっと社会に影響を与えるプロジェクトで将来に備えていく方法をもつことを示唆しています。

このプロジェクトは同時に、フランスと日本の間にある戦略的かつ持続可能な関係の強化を体現しています。フランス館は、展示スペースとしての役割を超えて、両国の商業的、制度的、文化的関係者間の豊かさを育む交流や会合をもつための合流点になりつつあります。この対話の場を通じることで、両国間の協力は、科学技術や芸術の分野だけでなく、より持続可能な未来への共通のコミットメントの中にも、ますます深く根をおろしています。

万国博覧会の閉会後も、これらの交流は継続し、二国間関係に永続的な足跡を残します。フランス館内で培われたパートナーシップは、今後も未来のプロジェクトに血液を送り続けます。このイベントの中心で築きあげられた関係が強く生き活きと保たれることを保証し、共通の未来を形作る共同作業への道を開いていくのです。





フランス館の設計・制作

クリエイティブチーム





COLDEFY、トマ・コルデフィ&イザベル・ヴァン・オート 建築家

COLDEFYはリール、パリ、上海に拠点を置く、建築と都市計画を手掛ける国際的な建築エージェントで、2006年にトマ・コルデフィとイザベル・ヴァン・オートにより設立されました。

世界中で、進行中のプロジェクトを抱えるCOLDEFYは感性豊かな建築スタイルで、都市やそこに生きる人々の限界を押し広げるような、環境的・都市的・社会的バランスを生み出しています。同エージェントの何よりの強みは、現在、そして未来の環境課題に対応した、持続可能でありながら革新的なダイナミズムとクリエイティビティです。

同エージェントはまた、香港デザインインスティテュートやブリュッセル欧州議会改修プロジェクト、オランダ・パルス・ナショナルミュージアム&メモリアルを始めとする、大型国際コンクールにおいて入賞しています。近年では、COLDEFYはパリ国際大学都市中国基金の建築を竣工させるとともに、モンペリエの「建築祭」に出展したオアシスプロジェクトで優勝を手にしています。

2022年には、フランスおよび世界における建築の発展と価値向上に対するトマ・コルデフィの尽力と貢献が認められ、文化大臣リマ・アブドゥル=マラックにより芸術文化勲章のシュヴァリエ（騎士）が授与されました。

コンクールには全部で132人の建築家が立候補していましたが、特にレンゾ・ピアノ、坂 茂とスノヘッタがいました。

コージェントは2023年のアジア大会のために西安サッカー国際センターを制作しました。構想は競技場界隈の発展の新しい方法を提案するもので、コミュニティの未来の需要と競技場の需要のバランスを取りながら、アジア選手権が終わった後でも長い間、1年中24時間発展することができるダイナミックな地区を作ることを目的とします。

精巧さ、不朽性、都会的な洗練と細部へのこだわりがエージェントの契約の要素となっていて、ダイナミズムと創造性により卓越しており、持続的で革新的な実践に基づいて、今日と明日の環境問題に対応していきます。

2022年には、エージェントがフランスの芸術的影響力のためにした仕事、取組み、貢献に感謝を表して、リマ・アブドゥル=マラック文化大臣が、トーマス・コルデフィを芸術文化勲章シュヴァリエに叙しました

www.coldefy.fr



CRA-CARLO RATTI ASSOCIATI 建築家

CRA-Carlo Ratti Associati（カルロ・ラッティ・アソシエイツ）はイタリア・トリノとニューヨークに拠点を置くデザイン&イノベーションの国際エージェントです。同エージェントは現在、マサチューセッツ工科大学（MIT）におけるカルロ・ラッティの研究をベースに、家具作りから都市計画まで、世界中で大小さまざまなプロジェクトを手掛けています。最近の代表的なプロジェクトとして、2020年ドバイ万博のイタリアパビリオン、シンガポールのバイオフィリック高層ビルであるキャピタ・スプリング、プリシュティナで開催されたビエンナーレ・マニフェスタ14会場、トリノ・アニェッリ財団本部の改装、ミラノ・イノベーション地区（MIND）の基本計画などが挙げられます。

CRAが手掛けるデジタル・ウォーター・パビリオン、コペンハーゲン・ホイール、スクリビットは、タイム誌の年間最優秀発明リストに選ばれており、同エージェントは、3度にわたり作品が選出されたことのある唯一のデザインエージェントとなっています。近年、同エージェントは世界初のロボットによるバーシステムを開発するスタートアップ、Makr Shakrや、建築業界においてデジタルイノベーションの活用を推進する企業、Maestro Technologiesの事業にも携わってきました。

2023年12月、カルロ・ラッティは第19回ヴェネツィア・ビエンナーレ国際建築展（2025年）のキュレーターに任命されました。

www.carloratti.com





gsm^o

スタジオ、GSM Projectは、アーティストのジャスティヌ・エマールとのコラボレーションのもと、フランスパビリオンの常設展示のシノグラフィーを手掛けています。パビリオンをひとつの作品と考え、GSMとジャスティヌ・エマールは、脈動をテーマにしたビジター・エクスペリエンスの芸術的および空間演出的コンセプトを確立しました。彼らは、装飾のデザイン、動線、音と映像による没入体験、照明、技術、素材などを包括的に手掛けています。パビリオンのパートナーの展示は、両者のコラボレーションによって創り上げられており、フランスと日本の密接な関係をテーマにした展示の最後の作品も両者が共に考案しました。彼らが提案するのは、野心にあふれ、大きな意味を持ちつつ、それでいて詩情に満ちた体験です。

GSM PROJECT 常設展のシノグラフィー

GSM Projectは、「忘れられない体験」を生み出すというミッションを自らに課しています。こうして、同スタジオは没入型デザインと訪れる人々のエンゲージメントに重点を置いたアプローチを取り、ミュージアム業界の常識をくつがえすような作品作りを行っています。

1958年にモントリオールにて設立されたGSM Projectは、これまでに多分野にまたがるデザインを実現しています。シノグラフィー、美術館管理技術、グラフィックアート、メディアという4つの専門分野を統合することで、GSM Projectのアイディアは、空間の中で命を授かり、本物のストーリーと生まれ変わります。また、同スタジオは博物館や科学センター、展望台、観光スポット、そして万国博覧会のような大規模国際イベントなど、多様な文化施設向けの展示や訪問体験の設計と実施を専門としています。

スタジオの国際的に高く評価されている主な実績として、考古学と歴史が詰まったモントリオールのポワンタ・カリエール博物館や、シンガポール国立博物館、ドバイのブルジュ・ハリファにある体験型展望台「At The Top」、10年以上にわたり各国にて開催されたインタラクティブな展示「スター・ウォーズMC アイデンティティーズ」、そして1967年モントリオール、1986年バンクーバー、1998年リスボン、2010年上海で開催された万国博覧会での特設パビリオンなどが挙げられます。

北米、アジア、ヨーロッパでの活動を展開すべく、GSMチームはモントリオール、シンガポール、そしてパリに拠点を置いています。20年以上の間、同スタジオはフランスでのプロジェクトを展開しており、最近の作品としては、トロアのステンドグラス施設の常設ツアー（2022年）やアンジェのコアントロー蒸留所の見学ツアー（2020年）があります。GSMはジャスティヌ・エマールとのコラボレーションで、2025年大阪万博フランスパビリオンの常設展シノグラフィーを手掛けます。

<https://gsmproject.com/fr/>



ジャスティヌ・エマール 常設展 アートディレクター

パリに暮らし、パリで活動するアーティスト、ジャスティヌ・エマール。彼女の作品は、私たちという存在とテクノロジーの間に生まれる新しい関係を探求するものです。

イメージのさまざまな媒体を、写真からビデオやバーチャルリアリティへと組み合わせて、彼女は神経科学、オブジェクト、有機生命体、人工知能の交わる場所に作品をおいています。彼女の作品の出発点となっているのは、ディープラーニング、そして人間と機械の間で交わされる対話です。

フランスパビリオンの常設展示のアートディレクターとして任命されたのは、ビジュアルアーティスト、ジャスティヌ・エマールです。彼女は、シノグラフィーを手掛けるGSM Projectとの連携により、ビジター・エクスペリエンスにおける本筋と各チャプターのコネクトを打ち立てました。まるで脈動のように、この展示は訪れる人々をシグナルの解釈から生まれる物語の中に引き込みます。それは、生物、植物、鉱物、技術など、あらゆる存在に共通するリズムのようなものです。

彼女の作品は、NRWフォーラム（デュッセルドルフ）、シンガポール国立美術館、モスクワ近代美術館、イタウ文化会館（サンパウロ）、シネマテーク・ケベコワーズ（モントリオール）、アイルランド近代美術館（ダブリン）、森美術館（東京）、MOT東京都現代美術館、バービカン・センター（ロンドン）、ワールド・ミュージアム（リバプール）、ペルノ・リカール財団（パリ）、CNES：フランス国立宇宙研究センター（パリ）、ルーヴル美術館（ランス）、グラン・パレ・イマーシフ（パリ）、ZKM：アート・アンド・メディア・センター（カールスルーエ）などを代表とする数々の美術館で展示されました。彼女は、モスクワ国際現代美術ビエンナーレ（ロシア）、トンヨン・トリエンナーレ（韓国）、カラチ・ビエンナーレ（パキスタン）、成都ビエンナーレ（中国）など、国際的なビエンナーレに参加しています。

ジャスティヌ・エマールの感性豊かなビジョンは、展示におけるクリエーションの中で、視覚と音響に共通する方向性を示しています。彼女のデジタル作品は、脈動が太陽の振動に変わり、視覚的な波や音楽的なビートが未来の共存の目に見えない証人となる世界を描いています。

また東京で開催された、2017年のアンスティチュ・フランセの「オーレミュール（Hors-les-murs）」ではレジデントアーティストに選ばれました。2020年、彼女はカールスルーエのZKMアート・メディアセンターでレジデントアーティストに任命されたほか、パリのジュ・ド・ポームとのパートナーシップのもとで開催されたフランス国立造形芸術センター（CNAP）の全国写真プロジェクト「IMAGE 3.0」で賞を受けています。2021～2022年、2023～2024年には、ル・フレノワ国立現代アート・スタジオで客員アーティスト教授を務めました。

赤い糸の伝説からインスピレーションを得て、ジャスティヌ・エマールはフランスと日本の運命を結ぶ導線を作り上げました。それは、パビリオンの入り口から展示終盤のクライマックスまで続く、展示の中心となるテーマとなっています。

2023年には、フランス「100人の女性文化人」の称号を授けられました。ジャスティヌ・エマールは、2025年に大阪で開催される万国博覧会フランスパビリオン常設展示のアートディレクターを務めています。加えて、2025年、ジャスティヌ・エマールはマサチューセッツ工科大学（MIT）との共同プロジェクトのために、ボストンとニューヨークの間にあるヴィラ・アルベティーヌで、レジデントアーティストとして滞在する予定です。

www.justineemard.com



**JOSÉ
LÉVY**

フランスパビリオン

は、フランスのあらゆる芸術的な豊かさを、一つのコンセプトを通じて表現したものであり、最も広く多様な意味での「愛の賛歌」だと言えるでしょう。私の役割は、常設展示を補完し、パビリオンを訪れるすべての人々にメッセージを伝えるために、全体の空間デザインを考え、作り上げることでした。また、一般の来場者向けスペースだけでなく、スポンサーサロンやレセプションルームも同様に手掛けています。



ジョゼ・レヴィー フランス館のクリエイティブディレクター

アーティスト・デザイナーのジョゼ・レヴィーは、特別パートナーシップの一環として、2025年大阪万博フランスパビリオンのクリエイティブディレクターを務めます。フランスパビリオンの常設展示を除いた、公共スペース・プロフェッショナルスペースの設計を、独自の視点と専門知識でサポートします。

多分野アーティストであるジョゼ・レヴィーは、装飾芸術と造形芸術が交わることで、才能とユーモアを帯びた詩的センスを駆使して活躍しています。彼の作品にはどれも、空想力と厳格さを独自の手法で調和させた表現が用いられています。その作風は、フランス文化と日本文化の絶え間ないディアローグの中から生まれました。これはオリンピック用豊の公式販売社であり、日本芸術作品のコレクターでもある彼の祖父母の影響を受けて、幼い頃から培われてきたものです。彼のその持ち味は、「夜回り (Le veilleur)」を制作したヴィラ九条山をはじめとする、日本の名門施設とのコラボレーションを通して更に大きく育まれていきました。ヴィラ九条山では、フランスと日本間の文化交流を象徴するかのような、侍をかたどった高さ7メートルにもなる巨大なランプを製作しました。

ジョゼ・レヴィーはパリ市グランプリ、芸術文化勲章シュヴァリエ、ヴィラ九条山（京都）での受章といった経歴を持ち、セーヴル美術館、サン・ルイガラス工房、エルメス、アスティエ・ド・ヴィラット、ロッシュ・ボボア、ディプティック、モノプリ、さらにはセラックスやルリエールまで、文化機関や著名なブランドとのコラボレーションを行っています。

ジョゼ・レヴィーの作品はギメ東洋美術館、パレ・ド・トーキョー、プティ・パレなどで展示されています。

www.joselevy.fr

フランスパビリオンに向けて、3つのテーマをじっくり考えました。それは、フランスの装飾芸術、日本の装飾芸術、そしてこれら両国の自然が持つ美しさ、です。私の作品には、常に日本の精神の一端が表れています。





フランス
FRANCE

報道関係者お問い合わせ先

Marie Ceillier

marie.ceillier@hillandknowlton.com

Hyacinthe Prache

hyacinthe.prache@hillandknowlton.com

Samuel Barbe

samuel.barbe@cofrex.fr

Chloé Villanova

chloe.villanova@cofrex.fr



パートナー向けプレスお問い合わせ

LVMH

Jean-Charles Tréhan • press@lvmh.com

Publicis Consultants • lvmh-team@consultants.publicis.fr

AXA

Ziad Gebran • ziad.gebran@axa.com

Ahlem Girard • ahlem.girard@axa.com

CIVA

France : Aurélie Kuhn • a.kuhn@civa.fr

France : Marjorie Mosin • mmosin@rouge-granit.fr

Japon : Foulques Aulagnon • f.aulagnon@civa.fr

Japon : Charles Durand • charles.durand@kafaine.jp

NINAPHARM

France : Josselin Camus • communication@ninapharm.com

Japon : Ayako Tanaka • communicationjp@ninapharm.com